

No.45
20260801
発行

さんぽく地区まちづくり通信

さんぽほ

タイトル「さんぽほ」には、タンポポの綿毛が飛んでいくように話題が広がり、まちづくりの花がたくさん咲きますようにとの願いが込められています。

山北まち協の公式 LINE を開設し、お友達登録者を募っています！

私たちのまちづくり協議会は「49の集落の日常生活（ありのままの生活）を基本資源として、一人ひとりが来訪者とその日常を分かち合うことのできる地域づくり」を目指しています。現在協議会が取り組んでいる「関係人口」の活動は、これを実現するための事業と位置付けており、その一つのツールとして、この度「山北地区まちづくり協議会公式 LINE」を開設し「さんぽくファン」の拡充に取り組んでいます。

地域の話題や身近な情報を手軽に皆様にお届けできるように進めてまいります。

ぜひお友達登録をお願いいたします。



お友達登録 QR
コードはこちら

“まち協”コラム

「観光以上・定住未満」の言葉に表現される新しい地域との関わり方「関係人口」、その第一人者である全国誌「ソトコト」編集長の指出一正氏をお招きし、先日「関係人口とまちづくり講演会」が村上市教育情報センター視聴覚ホールを会場に開催されました。

「地域の魅力・暮らす幸せ・関わる幸せ」「まちをおもしろがる視点」「未来を楽しくつくる方法」「まちや地域に関わる人を広げる考え方」等々、数々の国や全国各地の行政機関の委員や講師を務める経験や編集者としての視点から、社会をリードする貴重な話を拝聴することができました。

全国的に地方の少子高齢化が進み、村上市、まして山北地区は、その急激な進行に直面している状況にあります。そのような中で、社会は「関係人口」に、地域の新しい形を求めています。山北地区は平成元年から「地域のありのままの生活が資源」との考え方のもとに地域づくりに取り組んできました。社会が変化してもこの基本は変わらないと今回の講演に勇気づけられた半面、その活かし方は、社会ニーズの変化とともに新たな視点で変えていかなければと…。

今後、この地域をどう発信し、自分たちの故郷づくりに生かしていくのかは、皆さん一人ひとりにも問われている課題ではないでしょうか？

(山北地区まちづくり通信編集部)

お互いの資源になれば

この地域と関わりたい。自分の経験から思うこと...



“さんぽくファン”の代表として
大井麻奈美：横須賀市出身

山北との出会いは、8年前の大学のフィールドワークでした。翌年は中継集落に1ヶ月間住み込み、盆踊りや畑仕事まで、地域の暮らしをまるごと一緒に過ごさせてもらいました。

それから気づけば8回目の訪問となり、今では「第2のふるさと」のように思いました。

地域の外から関わりたいと思いつつも、なかなか関係性を続けられない人には、二つの不安があるからと私は感じています。

一つは「今、地域がどんな状態なのか分からない」、もう一つは「行って迷惑じゃないだろうか」です。

その不安を解消してくれたのが、集落の人たちとの継続的なコミュニケーションで、集落の日常を伝えるブログでの交流でした。

「クマが出ました」「排雪また始めました」。特別な出来事でもなく、日々の暮らしが届くだけで、遠くいても地域のことを身近に感じられます。大雨のニュースを見ては心配になり、元気な様子を見てはまた行きたくなる。情報があるだけで、気にかかる理由が生まれるのだと思います。

更には、何でもない日の連絡(LINE)による交流もありました。

誕生日や、特に用もないときに便りが届く。たったそれだけで「行っても、きっと大丈夫だ」という気持ちになりました。

義務でも仕組みでもなく、思わずやってしまうような関係が、人を何度でも呼び寄せるのだと思います。

山北の人の愛情が、何時間かけても帰りたい「第2のふるさと」になれるのだと思います。

2026.03.15 山北地区地域づくり楽習会
山北まち協公式 LINE 公開イベント
「私がさんぽく推しになったわけ」より抜粋

【編集・発行】

山北地区まちづくり協議会・事務局

TEL：0254-77-3111(代)

s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

〒959-3993 村上市府屋 232 番地

(村上市山北支所 地域振興課総務管理室内)



左:佐藤真衣(担当:情報発信・関係人口)

中央:加藤優美子(担当:集落コーディネーター)

右:板垣敏幸(担当:まち協事務局)

今年度から
新任の集落支援員として
活動しています！
よろしくお願いいたします。m(_ _)m

地区の現状を理解しようよ

ホントはこんなことをしたいのに人がいなくてできない。人が少なくなったのだからしょうがない。なんて考えていませんか？そのような考え方では、地域がどんどんマイナス方向へ進んでいってしまいます。自分の大切な故郷を残すためには、まずは地域の現状を知ること、そして地域で生き生きと暮らすには、どのように過ごすことが大切なのか？他人事ではなく、自分事として何ができるか考え行動してみませんか！まち協はそのような方々を応援しています。

山北地区の人口や世帯数が合併当時（S20.04.01）と現在（R08.04.01）でどう変化したのかを皆さんにお知らせいたします。

人口区分	人数(人)			構成比(%)		
	H20	R8	差	H20	R8	差
総数	7,260	4,364	△2,896	100.0	100.0	—
年少	696	226	△470	9.6	5.2	△4.4
生産	3,774	1,790	△1,984	52.0	41.0	△11.0
65以上	2,790	2,348	△442	38.4	53.8	15.4
75以上	1,548	1,508	△40	21.3	34.6	13.3

※年少：0～14歳、生産：15～64歳、75以上は65以上の内数

世帯数：H20＝2,508世帯 R8＝1,886世帯 差△622世帯

※合併当初から現在までに 人口は△39.89%(約△2/5)

世帯は△24.80%(約△1/4)が地域から消滅し、少子化、高齢化が著しく進行しています。(資料:住民基本台帳)

”私たちの大切な故郷、一人ひとりの行動で素敵な故郷に”



「守りたいもの。守りたい場所。」
故郷を想う職人の心



株式会社ケンタク

<https://saitokentaku.com>

建築一式工事業 新潟県知事許可(般-6)第42317号



令和元年「にいがたの名工」

卓越した技術と信頼で
皆様の足もとを支えます

創業80年
豊替えなら 平畳店

村上市勝木 TEL：77-2641